

「英文学と大学の行方を考える」

日本英文学会関東支部有志による意見交換 会

日時：8月8日（土）15:00-17:00

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館4階コラボレーションルーム2
地図：http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_17_j.html

発言予定者（50音順）：阿部公彦（東京大学）、アルヴィ宮本なほ子（東京大学）、河野真太郎（一橋大学）、齋藤一（筑波大学）、田尻芳樹（東京大学）、中井亜佐子（一橋大学）、原田範行（東京女子大学／関東支部長）

さる6月8日、文部科学省は全国の国立大学にたいして、教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院の「組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努める」ことを求める通知を出しました。昨年の学校教育法・国立大学法人法の改正によって学長のガバナンスが大幅に強化され、文科省の意向に沿う大学改革がすでに着々と推し進められている大学もあります。

文部科学大臣の名において出されたこの通知は、個々の大学内の問題であるにとどまらず、日本の英文学研究と教育の将来、さらには社会全体の未来に重大な影響を及ぼすものです。そこで、英文学研究者のあいだでの議論のきっかけとなるよう、意見交換会を開催することにしました。それぞれの所属大学の状況や問題を差支えない範囲で共有するとともに、英文学研究者として、あるいは学会としていま何ができるか、ざっくばらんに話し合う予定です。みなさまのご参加をお待ちしています。国立大学にかぎらず、公立・私立大学ご所属の方々のご参加も歓迎します。

なお、7月31日（金）には、日本学術会議主催による「公開シンポジウム——人文・社会科学と大学の行方」が開催されます。詳細は日本学術会議ホームページ <<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/215-s-1a.pdf>> でご確認ください。

問い合わせ先：中井亜佐子（一橋大学）もしくは
日本英文学会関東支部事務局（kanto/elsj.org（/のかわりに@を入れてください））